

GCS 評価・記録シート

Check → Observe → Stimulate → Rate | E・V・Mを別々に評価し、NTは理由とともに記録

急な意識低下・新規神経症状・呼吸循環の異常では、GCS採点を優先して安全確認・報告を遅らせない。

CHECK 評価を妨げる因子を確認 コミュニケーション障壁、治療の影響、麻痺・外傷など	OBSERVE 自発反応を観察 開眼、発語内容、左右の動きを刺激前に観察	STIMULATE 必要時に刺激 音声：会話/大声で指示 身体：指先・僧帽筋・眼窩上切痕の圧迫	RATE 最良反応を判定 観察された最良反応をE・V・Mそれぞれで評価
--	---	--	--

CHECK例：言語・聴力・失語／挿管・気管切開／鎮静・筋弛緩／眼瞼腫脹／麻痺・脊髄損傷など。阻害因子は成分ごとに判断する。

E | 開眼反応 (Eye opening)

Score	判定	判定基準 (要約)	確認
4	自発開眼	刺激前から自発的に開眼している	☐
3	音声で開眼	会話または大声による指示で開眼する	☐
2	圧迫で開眼	指先への圧迫刺激で開眼する	☐
1	開眼なし	開眼せず、評価を妨げる局所因子もない	☐
NT	評価不能	眼瞼腫脹など局所因子により開眼を評価できない ※NTを1点に置換しない	☐

V | 言語反応 (Verbal response)

Score	判定	判定基準 (要約)	確認
5	見当識あり	氏名・場所・日付などの見当識が保たれている	☐
4	混乱した会話	見当識は不十分だが、会話として意思疎通できる	☐
3	発語のみ	理解可能な単語は出るが、会話としては成立しない	☐
2	発声のみ	うめき・唸りなど、理解可能な単語にならない	☐
1	発声なし	聴取できる音声反応がなく、阻害因子もない	☐
NT	評価不能	挿管・気管切開などで音声反応を適切に評価できない ※評価可能性を個別に判断	☐

M | 最良運動反応 (Best motor response)

Score	判定	判定基準 (要約)	確認
6	指示に従う	2段階の指示に従って動作できる	☐
5	局在	頭頸部への刺激に対し、手を刺激部位へ向け鎖骨より上まで持ち上げる ※M4との境界に注意	☐
4	正常屈曲	刺激で肘を素早く屈曲し、異常屈曲の特徴が主体ではない ※M5の局在を満たさない	☐
3	異常屈曲	刺激で肘を屈曲するが、常同的・内旋など異常屈曲の特徴が主体	☐
2	伸展	刺激で肘関節が伸展する	☐
1	運動なし	上肢・下肢に運動反応がなく、阻害因子もない	☐
NT	評価不能	筋弛緩、重度麻痺などで運動反応を適切に評価できない ※NTを1点に置換しない	☐

M5 と M4 の境界：M5＝頭頸部への刺激に対し手を刺激部位へ向ける「局在」。M4＝肘は素早く屈曲するが、刺激部位への局在を満たさない正常屈曲。

正常屈曲：素早い／反応が変動／腕が体幹から離れる
異常屈曲：ゆっくり・常同的／前腕内旋／上肢が胸部を横切る等

記録 | 観察した反応 + E / V / M + NT理由

日時	年 月 日 時 分	評価者	主な阻害因子
E	Score: ____	観察した反応：	NT理由／左右差・補足：
V	Score: ____	観察した反応：	NT理由／左右差・補足：
M	Score: ____	観察した反応：	NT理由／左右差・補足：
合計	/15	再評価	時刻： E： V： M： 変化・申し送り：

NTルール：評価不能の成分は「1」に置き換えない。E・V・MのいずれかがNTなら合計点を算出せず、評価できた成分とNT理由を記録する。